

頑張る

# 農業法人

広大な圃場(ほじょう)整備された綾部市小西町で、農地を守る担い手として2007年に任意団体の営農組合を母体に立ち上げた農事組合法人「えーのー小西」。9畝の圃場で水稲栽培を中心に経営に取り組む。JA京都にのくいのTACの指導で、今年から紫ずきんなどを新たに導入して高収益な農業を目指す計画だ。

同町は同市西部に位置する。1997年から近隣の館、豊里、今田の3町と合わせて71畝の府の圃場整備事業が始まり、05年に完了した。1畝以上の大区画の圃場が多く誕生した半面、高齢化や後継者不足などで農地を扱いきれない農家も出てきた。

そこで、集落営農により大型農機を導入し農地を守ろうと、同町の口小西集落の全農家40戸で01年に小西営農組合を結成した。

当初は30畝の圃場のうち2・6畝を集積して水稲の生産を中心に、茶の生産にも取り組んだが、さらに担い手確保、農地集積を進める必要から法人化の検討を開始。JAや中央会、行政の指導を受け、隣の奥小西集落にも働き掛けて、07年10月に法人を設立した。

組合員は、口小西集落の40人と奥小西集落の9人。役員は代表理事の四方均さん(70)ら5人と監事2人。

JAから購入したトラクター2台、コンバイン1台、田植え機1台などを保有する。

## 綾部市 小西町 農事組合法人 えーのー小西



倉庫の壁画の前に、農地保全・地域農業振興に向け頑張る法人の四方代表理事(右)と役員ら

### 複合経営で高収益へ

法人化により信頼が一層高まり農地を預ける農家が増え、現在は約9畝まで拡大した。「設備投資を積極的に」

### 高齢化進んでも休耕地作らず

行つたため、経営は正念場だ。JAの指導もあり何とか収支確保ができている」と四方さんは話す。昨年は、TACの指導で、酒造好適米「五百万石」約1畝の生産に取り組んだ。また、数年前に定植した茶樹1・1畝が成木化したことから、今年から煎茶の出荷を本格的に開始する。今後は紫ずきんや小豆の生産にも挑戦する計画で、複合経営の確立に力を込める。

四方さんは「高齢化が進むが、休耕地を作らないことを目指す。茶や新しい作物の導入にも力を入れたい。昨年30代の息子が勤めを退職してオペレーターとして働いてくれており、後継者として期待している」と話す。

▽法人所在地 綾部市小西町落合79。電話 0773(47)0578(四方さん方)。